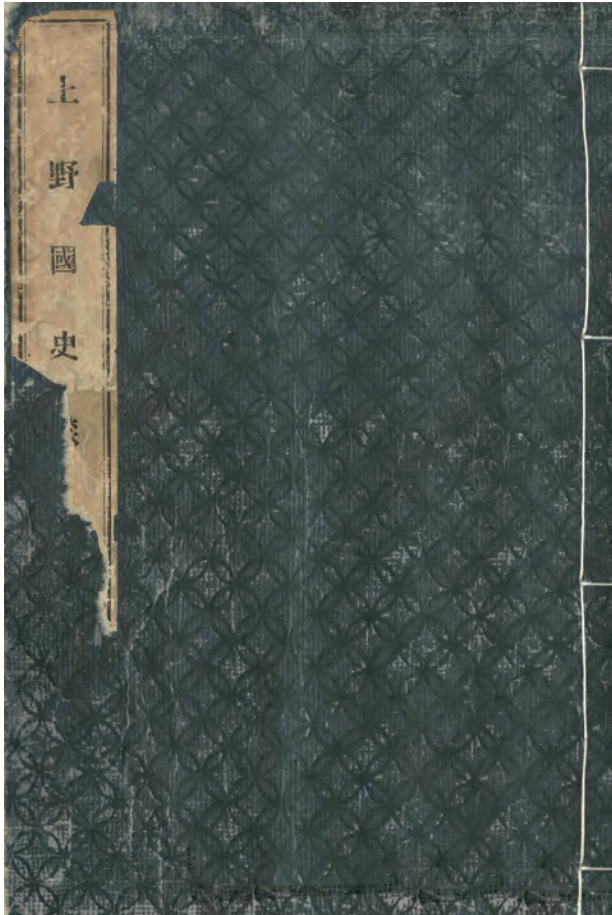


上野國史談

復刊版



群馬地域文化振興会

貴族院議員男爵

榊 取 素 彦 閱 并 題 辭
山 崎 衡 校 閱
大 塚 浩 編 輯

上野國史談



木田商店發兌

温



如

世

新

癸巳盛夜書

不如海畔主人



上野國史談

目次

名稱沿革

一

上毛野君

二

國守及ひ太守

六

新田義重寺尾城に據る

七

守護地頭

八

新田義貞義兵を擧ぐ附新田氏傳記

九

上杉顯定平井城に居り關東を管領す

二〇

北條上杉武田三氏此國を爭ふ

二三

瀧川一益廐橋城に居る

二七

德川家康十六藩を立つ

二七

高山正之

徳川氏失政、柄崎常陸介、
蒲生秀實、林友直畧傳、

二九

大政維新

四七

學制沿革

五一

總論

五四

上野國史談

山崎 衡園

大塚 浩編

○名稱沿革

此國、古へ、下野と共に、稱して毛野國と云へり。地勢西北は山多く、東南に至るに隨ひて稍く平曠なり。利根川、國の中央を流れ、灌漑の利、漕運の便、甚た良し。而して土壤亦豊腴、米麥桑麻の属、産せざるはなし、故に此稱ありと云ふ。

仁徳天皇の時、分て上下とし、後又毛の字を省きて、直に上野、下野と稱す。

○上毛野君

崇神天皇四十八年(紀元六一一年)皇子豐城入彥命、東山道の都督に拜し、來りて此地に治す。是より子孫數世、其職を襲く、之を上毛野君と稱す。御諸別王、上毛野田道、上毛野形名等は皆其裔なり。

崇神天皇ノ第三子ヲ活目尊ト曰フ、幼ニシテ岐嶷、長スルニ及ヒ、倜儻ニシテ大度アリ、天皇之ヲ鍾愛シ、常ニ左右ニ置ク、嘗テ豐城命、及ヒ活目尊ヲ召シテ、謂テ曰ク、朕、二子ニ於テ、慈愛異ナルナシ、未タ孰レヲ嗣ト爲ンヲ知ラス、夢アラハ宜シク朕ニ告クベシ、此ヲ以テ、之ヲ占ハント、二皇子沐浴シテ寢ヌ、明日豐城尊入テ奏ス、曰ク夢ニ御諸山ニ登リ、東嚮シテ弄槍スルコト八

タビ、擊刀スルヲ八タビ、活目尊モ亦奏ス、曰ク、夢ニ御諸山ノ巔ニ登リ、四方ニ繩繩シ、啄粟雀ヲ逐フト、天皇之ヲ諭シテ、曰ク、兄唯、東嚮ス、宜ク東國ヲ治ムベシ、弟、四方ニ臨ム、宜ク朕カ位ヲ繼クベシト、遂ニ活目尊ヲ立テ、皇太子トナシ、豐城命ニ東國ヲ治メシム、活目尊ハ垂仁天皇ナリ、

御諸別王は、蝦夷の亂を平け。田道は新羅を征し、蝦夷を討つ。而して形名も、亦蝦夷の亂を鎮定せり。皆功臣と謂ふ可し。

●景行天皇五十五年(紀元七八五年)二月、豐城命ノ孫、彥狹島王ヲ以テ、東山道十五國ノ都督ニ拜ス、道ニシテ薨ズ、翌年八月、其子御諸別王ヲシテ職ヲ襲カシム、時ニ蝦夷擾亂ス、王乃チ來リ

テ上野ニ治シ、蝦夷ヲ鎮壓ス、

●仁德天皇五十三年(紀元一〇二五年)、新羅朝貢セズ、上毛野君
田道ヲ遣シ、精兵ヲ率井テ之ヲ撃タシム、詔シテ曰ク、新羅、若シ
命ヲ阻マバ、宜ク急ニ之ヲ撃テト、新羅果シテ反ス、數々來リテ
戰ヲ挑ム、田道、壘ヲ固フシテ出テズ、新羅ノ卒ヲ獲テ、軍ノ虛實
ヲ問フ、對ヘテ曰ク、百衝ト云フ者アリ、驍勇絶倫、毎ニ右軍ノ先
鋒タリ、若シ其左ヲ撃タバ、之ヲ破ランコ必セリト、田道、精騎ヲ
選ヒテ、其左軍ヲ撃ツ、新羅ノ兵大ニ敗ル、勝ニ乘シテ縱撃シ、數
百人ヲ殺傷シ、四邑ノ人民ヲ虜ニシテ皈ル、

五十五年、蝦夷反ス、田道ヲ遣シテ之ヲ討タシム、田道敗死ス、從
者其手纏ヲ取リテ歸リ、田道ノ妻ニ授ク、妻大ニ悲慟シ、即チ手